

第68歩

「音楽の創造都市を想う」

趣味を聞かれれば、中学生の頃から、ずっと音楽鑑賞を一番に挙げてきました。音楽ほど、人生の節目節目に私に寄り添い、心を躍らせてくれたものはありません。その音楽の分野で、高松市を「ユネスコ創造都市ネットワーク」に加盟登録しようと、今年3月に申請を行っていましたが、今回の加盟は認められず、願いは叶いませんでした。非常に残念ですが、高松の街がさまざまな音楽により息づき、響き合う、そんな楽しい創造的なまちづくりは、引き続き進めてまいりたいと思います。少し大げさですが、思えば、私の人生はいつも音楽とともにありました。中学生の頃は、ラジオから流れる洋楽のポップスやロックに心を奪われ、英語の歌詞の意味もよく分からないまま、田舎ゆえに許された大音量の音楽に体を揺らしたり、ながら族で教科書とにらめっこしていました。大学時代にはジャズと出会い、自由な即興の世界に魅せられたりもしました。アパート近くの高級オーディオセットのあるジャズ喫茶に通い、トランペットやサックスなどの一音に人生を重ねているのだと気取っていました。社会人になってからは、クラシック音楽の奥深さに引き込まれ、ピアノの音やアンサンブル、また壮大なオーケストラの響きの中に、美しさを感じるようになりました。こうした音楽遍歴を思い返すと、高松市が「音楽の創造都市」として歩みを進めようとしたことは、本当にうれしいことでした。瀬戸内の穏やかな風、潮の香り、街角に漂う人の声やさまざまな音——その全てが高松の音楽文化の要素になり得るものです。この街で暮らしながら、夕暮れ時に港を歩くとき、どこからかギターやサックスの音が聞こえる。朝、商店街のシャッターが開く音にバロックの調べが重なる。そんな日常も空想していました。高松国際ピアノコンクールや瀬戸内国際芸術祭といったこれまで築かれてきた高松の文化芸術の礎（いしずえ）に、ユネスコ創造都市ネットワークという新たな翼が加わるよう、再度、挑戦してみる価値はあると思います。高松の街をさらに豊かに、にぎやかにしていくために。

